








病害虫発生予察情報予報第8号(11月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病害虫 (抜粋)
オオムギ	網斑病	並	 オオムギ網斑病
コムギ	シロトビムシ類	並	
	1. シロトビムシ類 常発圃場では、チアメトキサム剤の塗抹処理、またはイミダクロプリド剤の種子乾粉衣とチウラム剤の塗抹処理の同時処理による防除を行う。		
麦類全般	1. 種子伝染性病害(オオムギ網斑病、麦類裸黒穂病等) 健全種子を使用するとともに、種子消毒を徹底する。		
大豆	1. 紫斑病 適期収穫を行い、乾燥施設へ速やかに搬入する。		
野菜共通	チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、 オオタバコガ、 シロイチモジヨトウ)	多	 シロイチモジヨトウ
	フェロモントラップへの誘殺が引き続き平年より多い。圃場観察で早期発見に努め、卵塊や分散前のふ化幼虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)は見つけ次第除去し、適切に処分する。また、幼虫の齢が進むと薬剤の効果が低下するため、若齢期に防除を行う。		
タマネギ	べと病	並	 ポトリチス葉枯症
	ポトリチス葉枯症	やや多	
	ネギアザミウマ	並	
	1. べと病 暗渠・明渠や高畝による排水対策を行うとともに丁寧に耕起し、べと病が発生しにくい環境づくりを行う。本圃の準備は時間に余裕をもって行い、適期に定植する。本圃での発生を抑えるために、育苗期および定植前後の薬剤防除を確実に実施する。 2. 乾腐病 前年に発生した圃場など、発生のおそれがある本圃に植え付ける場合、地床育苗の苗は定植直前にベンレート水和剤またはトリフミン水和剤を根部浸漬し、セル育苗の苗は定植前日に同薬剤をトレイに灌注する。		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
イチゴ (本圃)	うどんこ病	並	 ハスモンヨトウ
	ハダニ類	並	
	アブラムシ類	多	
	1. チョウ目害虫 平年より発生が多く、圃場での食害も急増している。葉だけでなく、花蕾や果実も食害して被害が拡大するおそれがあるため、圃場観察で早期発見に努め、低密度のうちに防除対策を行う（防除対策は野菜共通の項を参照） 2. ハダニ類 天敵を利用する圃場では、天敵への影響が少ない薬剤を用いてハダニの密度を0頭レベルに抑えた後に、天敵（カブリダニ類）を放飼する。		
キュウリ	べと病	多	 退緑黄化病
	うどんこ病	並	
	褐斑病	やや多	
	アザミウマ類	多	
	コナジラミ類	やや多	
1. ミナミキロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 アザミウマ類、コナジラミ類ともに発生が多い。媒介虫の薬剤防除を徹底するとともに、ウイルス病罹病株を認めた場合は、早急に除去し、適切に処分する。 また、これらの虫を次作に持ち越さないために、薬剤防除を栽培後期まで継続するとともに、植え替え時には、キルパーを用いるなどして株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、施設密閉処理を十分な期間（地温15℃の場合18日以上）確保して実施する。			
トマト	コナジラミ類	多	 コナジラミ類
	1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 コナジラミ類の発生が多い。今後のコナジラミ類の多発とウイルス病の発生を防止するため、侵入防止対策と初期からの防除を徹底する。ウイルス病罹病株を認めた場合は、早期に除去し、適切に処分する。		
キャベツ	菌核病	並	 チョウ目害虫食害
	黒腐病	やや多	
	アブラムシ類	やや少	
1. 菌核病 冬春どりキャベツにおける本病の主な防除適期は、土壌中の菌核から子のう盤の形成が増加する11~12月頃と推定されることから、この時期の予防散布を徹底する。			

作物名	病虫害名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
キク	白さび病	やや多	 <p>チョウ目害虫によるキクの被害</p>
	アザミウマ類	やや少	
	アブラムシ類	並	
	ハダニ類	やや少	
	ハモグリバエ類	並	
	チョウ目害虫	多	
1. チョウ目害虫 フェロモントラップでの誘殺数が多く推移している。幼虫の齢が進むと薬剤の効果が低下するため、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。			

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害総合防除計画」も参照してください。

病虫害総合防除計画掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji003101844/index.html

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（3 ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～3 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
5 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

11 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 11 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 6 年 10 月 24 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年より多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 11 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	10 (13.3℃)	80	高い
降水量	10	40 (89.4 mm)	50	多い

Ⅲ. 11月の予報

オオムギ

[【概要に戻る】](#)

1. 網斑病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 前年の発生状況（令和6年4月調査）

令和6年産の大麦における網斑病の発生は、平年よりやや多かった。〈±〜+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

コムギ

[【概要に戻る】](#)

1. シロトビムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 令和6年産コムギでの発生状況（図1参照）

発生圃場率：2.7%（平年2.2%、令和5年産2.7%）

平年比：並〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時期が遅くならないよう、適期播種に努める。
- (2) 被害が多い圃場では、芽出し播きや芽出し乾燥播きを行う。
- (3) 被害が著しい圃場では、オオムギを作付けする。
- (4) その他については、特記事項を参照する。

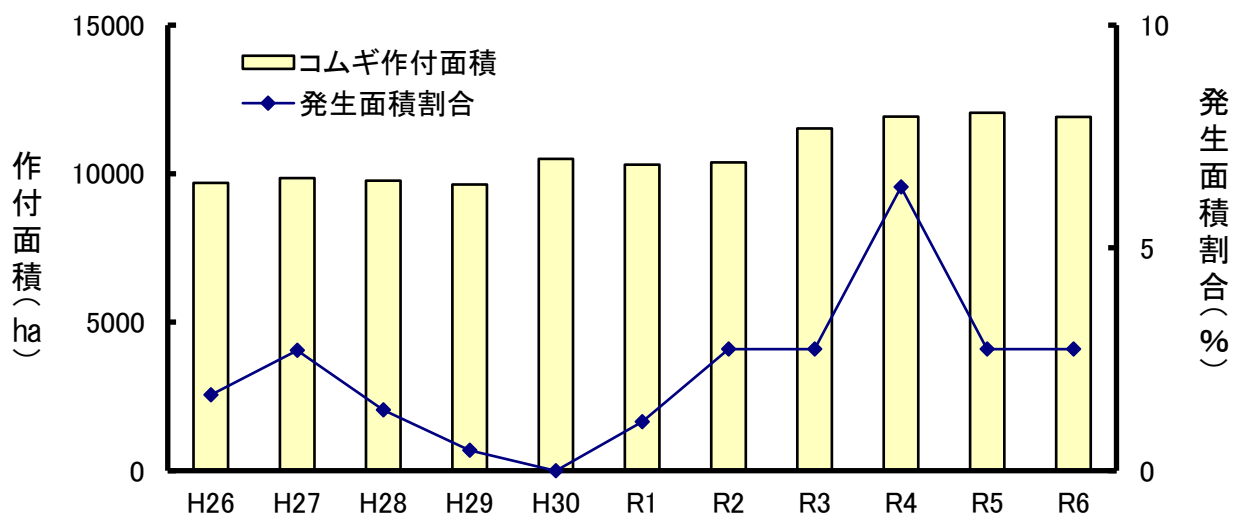


図1 コムギにおけるシロトビムシ類の発生面積割合の推移

1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1～2 参照）

作物名	食害株率(%)	平年比	平年値(%)	前年値(%)
イチゴ	26.5	多<+	9.1	5.8
キャベツ	31.9	少<-	49.6	44.4

② フェロモントラップ（図3～5 参照）

ハスモンヨトウの10月の誘殺数は、平年より多く推移している（図3）〈+〉

オオタバコガの10月の誘殺数は、平年より多く推移している（図4）〈+〉

シロイチモジヨトウの10月の誘殺数は、平年より多く推移している（図5）〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

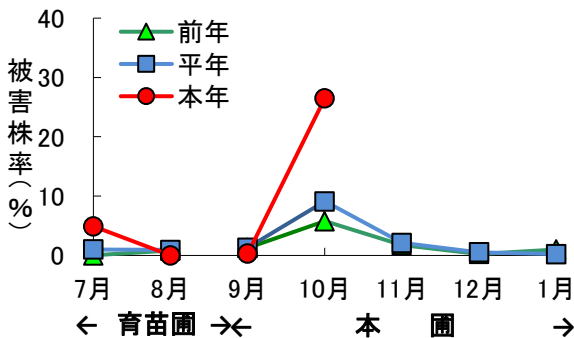


図1 チョウ目害虫によるイチゴの被害株率の推移

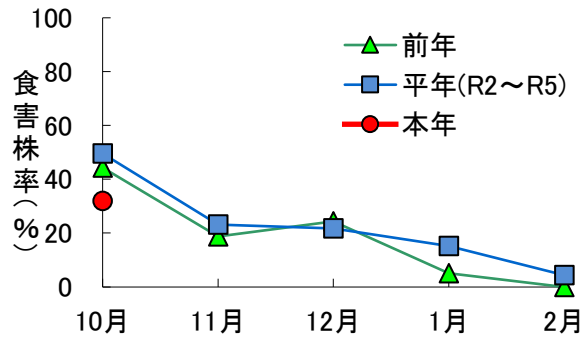


図2 チョウ目害虫によるキャベツの被害株率の推移

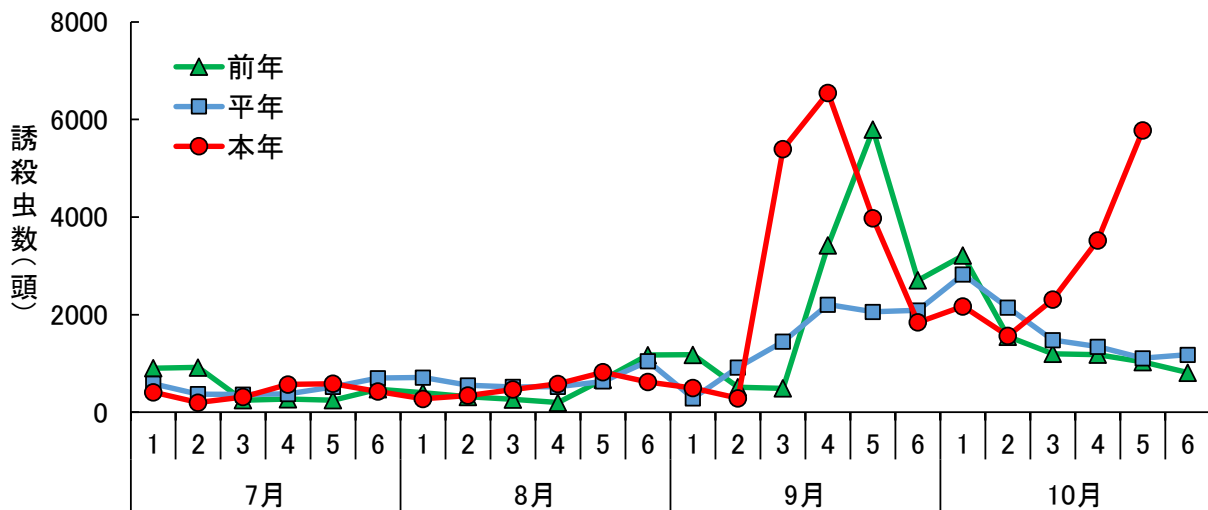


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数
(川副町・農業試験研究センター調査)

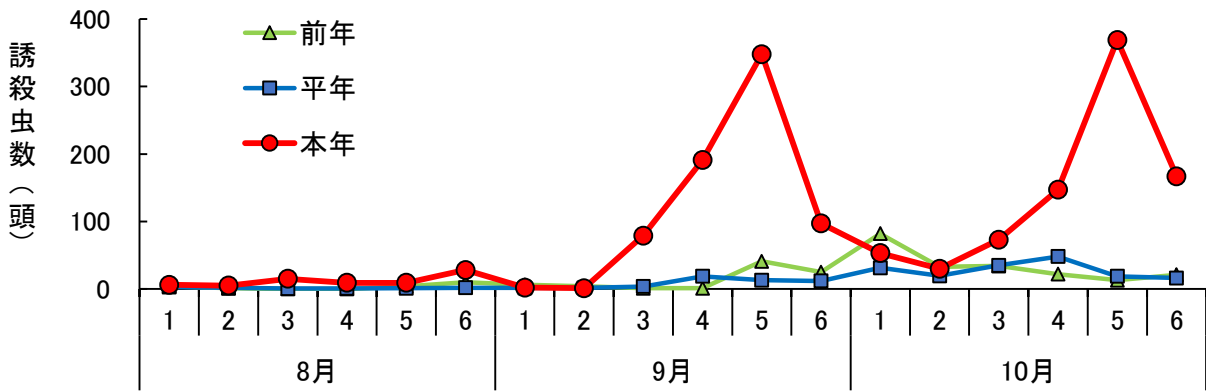


図4 フェロモントラップによるオオタバコガ雄成虫の半旬別誘殺数
(川副町・農業試験研究センター調査)

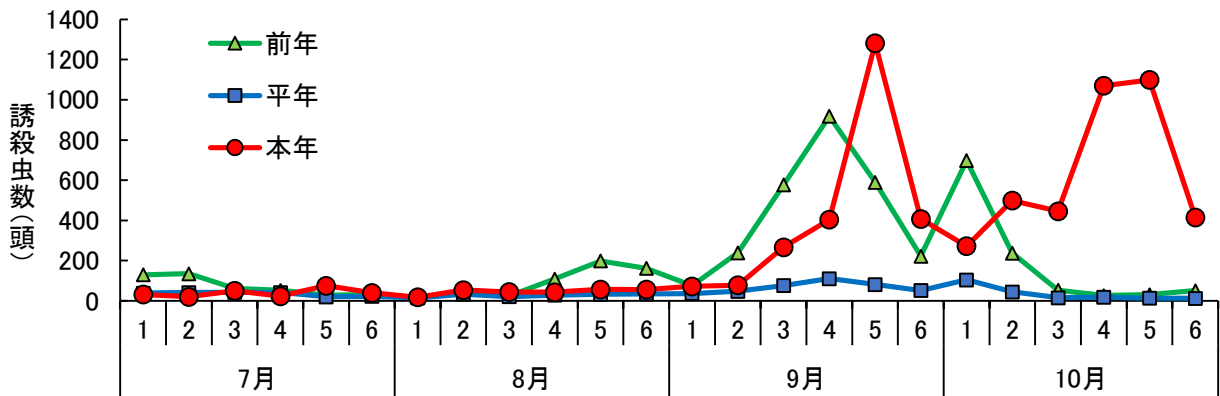


図5 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数
(川副町・農業試験研究センター調査)

タマネギ

定期調査 16 育苗圃場
調査日：10月24日～25日

[【概要に戻る】](#)

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：**平年並**

(11月に発病することはまれだが、苗床あるいは本圃で感染するリスクがある。)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (苗床)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 圃場の菌密度 (本圃)

平成25年以降、発生株率・発生圃場率はともに高い傾向が続いており、本圃の菌密度は高いと推察される。(±~+)(図2参照)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

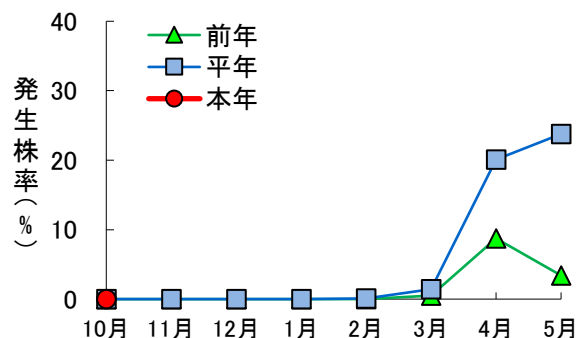


図1 タマネギでのべと病の発生推移

2. ボトリチス葉枯症

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況 (図1参照)
発生株率：0% (平年0%、前年0%)
平年比：並 (±)
 - (2) 11月の気象予報
気温は高く、降水量は多く、多発生の条件 (+)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 育苗期から予防防除を行う。

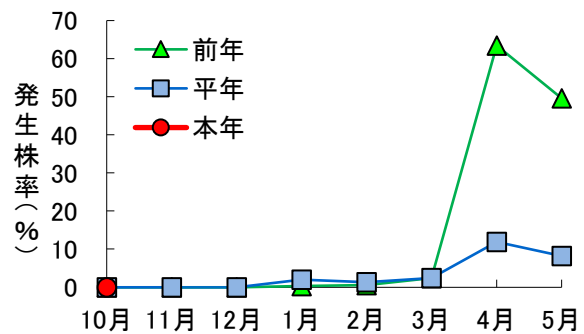


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

3. ネギアザミウマ

- 1) 予報の内容
発生量：平年並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況 (図1参照)
発生株率：0% (平年0.2%、前年0%)
平年比：やや少 (-~±)
 - (2) 11月の気象予報
気温は高く、降水量は多く、多発生の条件 (+)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 本虫を本圃へ持ち込まないよう、苗床での防除を徹底する。

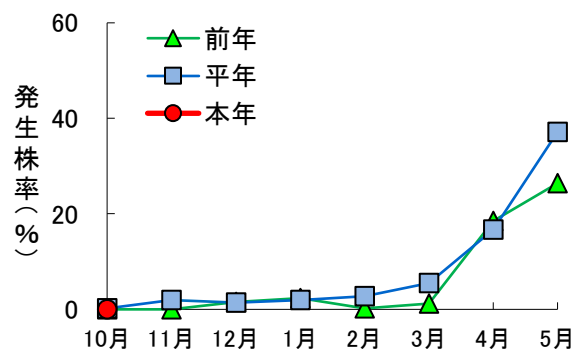


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

イチゴ (本圃)

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場
調査日：10月15~24日

1. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査 (図1 参照)
発生株率：0% (平年 5.0%、前年 0%)
平年比：並 (±)
 - (2) 11月の気象予報
降水量は多く、多発生の条件 (+)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 定期的に 10~14 日間隔の薬剤防除を実施する。

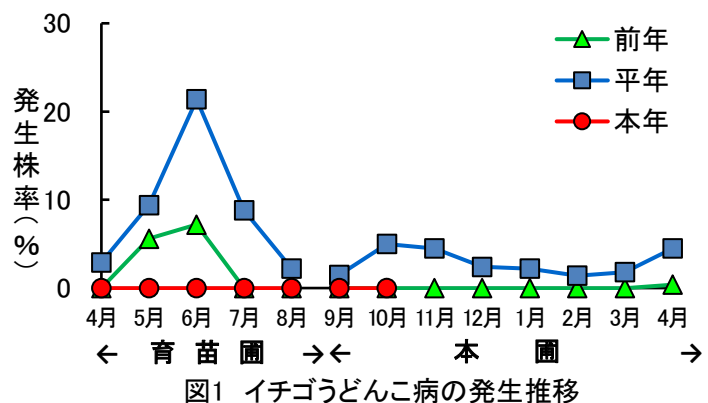


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：1.0% (平年 8.0%、前年 6.3%)

平年比：やや少 (一～±)

(2) 11月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (＋)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

(2) その他については、特記事項を参照する。

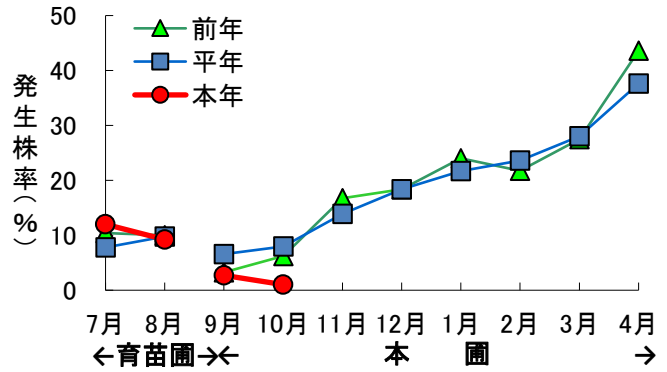


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：6.3% (平年 3.3%、前年 0%)

平年比：やや多 (±～＋)

(2) 11月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (＋)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場周辺の雑草は本虫の発生源となるため、除草を行う。

(2) 発生初期に薬剤防除を実施する。

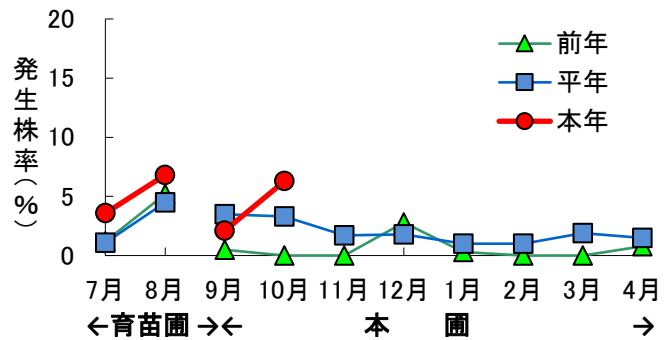


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 4 圃場、防除員 4 圃場

調査日：10月16日～24日

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：23.8% (平年14.0%、前年1.9%)

平年比：やや多 (±～＋)

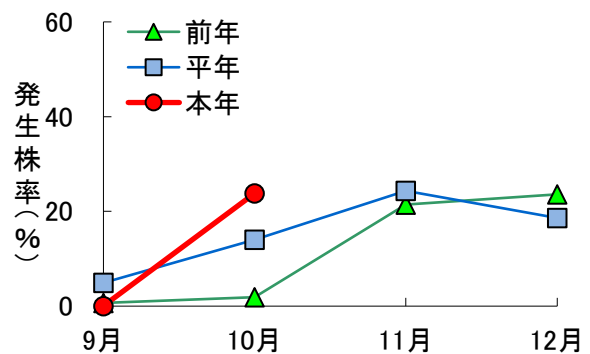


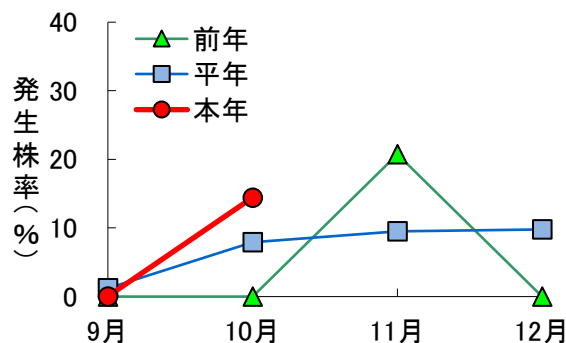
図1 キュウリベと病の発生推移

- (2) 11月の気象予報
降水量は多く、多発生の条件〈+〉

- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 湿度が極端に高くないよう、適正な湿度管理に努める。

2. 褐斑病

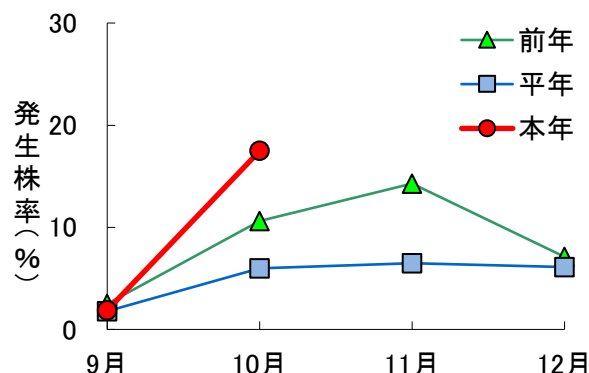
- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 定期調査 (図1 参照)
発生株率：14.4% (平年 7.9%、前年 0%)
平年比：並〈±〉
- (2) 11月の気象予報
降水量は多く、多発生の条件〈+〉



- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 湿度が極端に高くないよう、適正な湿度管理に努める。

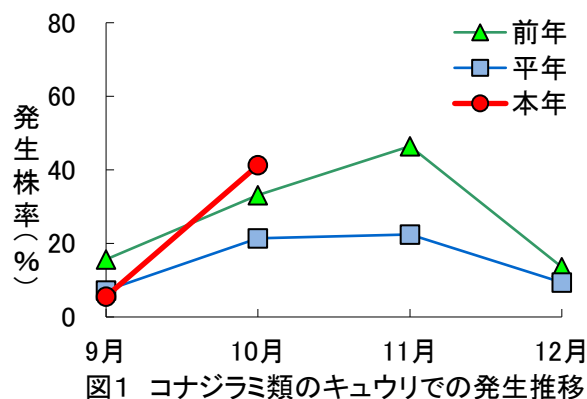
3. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 定期調査 (図1 参照)
発生株率：17.5% (平年 6.0%、前年 10.6%)
平年比：多〈+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。



4. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 定期調査 (図1 参照)
発生株率：41.3% (平年 21.4%、前年 33.1%)
平年比：やや多〈±~+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。



トマト

定期調査：6 圃場、防除員 4 圃場
調査日：10 月 22～24 日

[【概要に戻る】](#)

1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：16.5% (平年 7.2%、前年 6.9%)

平年比：多 <+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

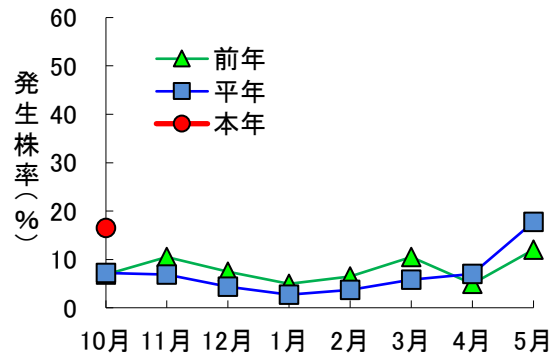


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

キャベツ

定期調査 8 圃場
調査日：10月22日～24日

[【概要に戻る】](#)

1. 黒腐病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 <±>

(2) 11月の気象予報

降水量は多く、多発生の条件 <+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期に薬剤防除を徹底する。

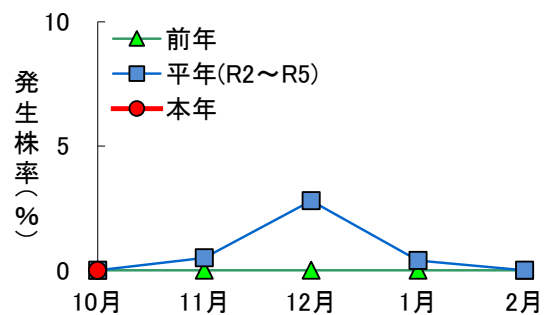


図1 キャベツ黒腐病の発生推移

キク

定期調査：8 圃場
調査日：10 月 22～24 日

[【概要に戻る】](#)

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±）

(2) 11 月の気象予報

降水量は多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図る。
- (2) 発生前から薬剤を定期的に散布する。
- (3) 散布する際は、葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように散布する。

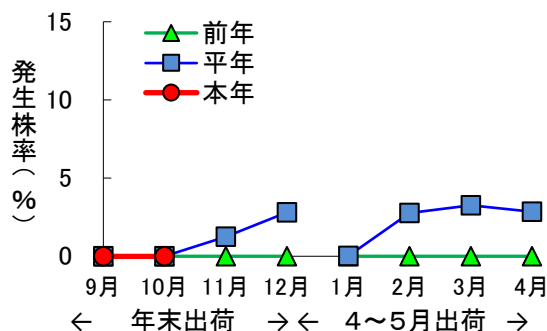


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類（クダヒアザミウマ、ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

発生株率：0%（平年6.4%、前年9.3%）

平年比：やや少（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。
- (2) 発生状況をよく確認し、低密度からの防除を徹底する。
本虫は、薬液の到達しにくい葉裏などに寄生しているため、散布むらがないよう、十分量を丁寧に散布する。
- (3) ミカンキイロアザミウマは、キクえそ病（TSWV）・茎えそ病（CSNV）のウイルスを媒介する。これらウイルス病の発生を認めた場合は速やかに取り除き、媒介虫に対する防除を徹底する。

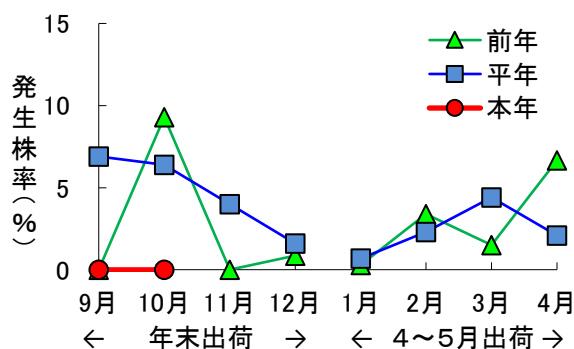


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率：0%（平年8.6%、前年1.0%）

平年比：やや少（-〜±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

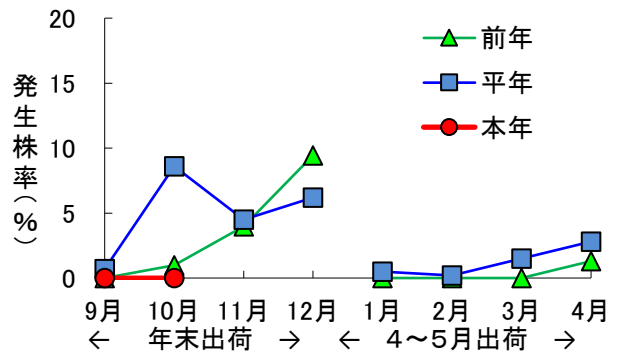


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

4. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ）

ウ)

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

被害株率：3.0%（平年1.0%、前年6.0%）

平年比：多（+）

②フェロモントラップによる誘殺数

野菜共通の項参照

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 種によって薬剤の効果異なるため、発生状況を確認し、薬剤を選択する。
- (2) 薬剤防除に当たっては、使用方法(収穫前日数等)を遵守し、虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- (3) その他については特記事項を参照する。

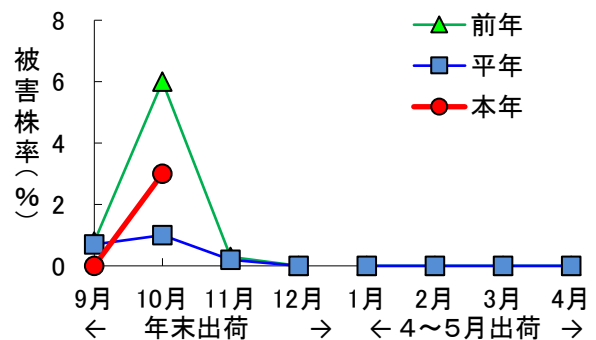


図1 チョウ目害虫によるキクでの被害株率の推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病虫害総合防除計画掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除セ QRコード*



防除計画 QRコード*

